

さよなら原発！ さよなら空母！

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

2013年1月8日 第5号

神奈川の原子力

空母と核燃料工場の危険性を考える

～ストッププルトニウム神奈川連絡会 2013年総会&講演会～

プルトニウムフリーが参加している、ストッププルトニウム神奈川連絡会の2013

年総会&講演会のお知らせです。

横須賀港では原子炉を積んだ原子力空母ジョージ・ワシントンが長期間停泊・修理を

行っています。修理中に大津波に襲われ、陸に乗り上げ原子炉事故が発生した場合、三浦半島で年間を通して最も多

い南南西の風を想定すると放射能が都心を直撃します。

横須賀市久里浜には核燃料

加工工場グローバルニュークリアフュエル・ジャパン(GNF-J)があり、福島原発でメルトダウンした燃料を製造しました。

輸送や加工をするときに危険性はないのでしょうか。

山崎久隆さんのお話を聞いて一緒に考えてみましょう。

《開催日》2013年1月8日(木)
《会場》かながわ労働プラザ(Lプラザ) 4階第3会議室 (JR石川町駅徒歩3分)
《時間》午後6時30分～8時15分 (開場:午後6時)
《講師》山崎 久隆さん(たんぼぼ舎)
《参加費》無料
《プログラム》
6:30～7:00 総会
7:00～8:15 講演会

もうつぐらないで核燃料！

1月14日(月・祭)

14:30～16:00

GNF-J 表門

(京浜急行/JR 久里浜駅から 徒歩15分)

☆思いをプラカードに書いて集まりましょう

☆鳴り物、仮装大歓迎

☆「災害が起きてからでは遅いのです。」そんな地域住民の思いから、GNF-J前で毎週月曜日「もう作らないで核燃料」の声をあげています。

☆祭日の月曜日は原発ゼロにむけて多くの人たちのつながりを作ろうと、幅広く参加を呼びかけています。

2012年12月15日～17日、福島県郡山市で、日本政府と国際原子力機関(IAEA)による「原子力安全福島閣僚会議」が開催されました。世界各国のリーダーや専門家が集まるこの機会に、市民の立場から、原発事故の被災者の方々と共に、世界



に向けて原発事故の実態と教訓を語り、「原発のない世界」へのメッセージを発信するために

さまざまなイベントが開催されました。参加した会員からの報告をお届けします。

「脱原発世界会議」に参加して

2012年12月15日、16日に脱原発世界会議2が東京（日比谷）と福島（郡山）で同時に行われました。私は15日のイノホールで行われたセッションに都合で午後のみ出席いたしました。

午前 “どこか変だよ、今の原子力規制”

午後 “原子力規制への市民の提言”

午後のセッションは日本側から3名、外国の方は米国、ドイツ、韓国の3名でした。

15日は天候も悪く、日比谷公園での会合など多くの催しと重なり参加者は少なかったのですが、会場は熱心な質問者と回答者のやりとりで充実した議論が続けられました。殊に規制当局の独立性については各国の方々の発言があり活発な質疑となりました。

ドイツのクリストフ・ビストナー博士のレポートより印象に残ったお言葉を引用させていただきます。

『原子炉はシビアアクシデントが発生した場合は壊滅的な帰結を招くこともある、とても複雑な技術システムである。たとえ最適化された規制組織があったとしても原子力発電において完全な安全性は達しえない。福島原発事故後、ドイツ議会はドイツにおける原子力の段階的な撤廃を再度議決した。……日本も自らの原子力の将来を決定する必要がある。原子力規制の改善は重要であるが、この大きな問題の一部にすぎない。』

(T. T.)

『さよなら原発世界大集会 & 脱原発世界大行進2』

昨年12月15日（土）午後、日比谷野外音楽堂で「さようなら原発一千万人署名市民の会」の呼びかけで集会が催されました。これは、15日から17日にかけて日本政府と国際原子力機関（IAEA）が、「原子力安全・福島閣僚会議」を福島県郡山市で開催するのに対抗したものです。原子力を推進しようとするIAEAや政府を許さないという立場を示したものです。

心配していた雨がポツポツ落ちてきて最悪の条件の中、それぞれに合羽やポンチョ、雨傘に身を整えて早くから市民が集まってきました。座席はビショビショで座れません。色とりどりの傘が並びました。中には、傘に「脱原



発！」「再稼働を許すな！」などの字も見えます。呼びかけ人の鎌田さん、内橋さん、澤地さんのお話の後、田中優子さんや、海外のNGOの方々のお話、福島現地の方の報告へと続きます。

中でも内橋さんの「明日は総選挙、皆さんはきっと大きな失望や絶望に打ちひしがれると思いますが、私たちに、絶望している暇はありません。何としても脱原発を成し遂げましょう！」というお話が印象に残っています。

その後、痺れるような冷たい雨の中をデモに向かいました。参加者は主催者発表で、1600人でした。(I. S.)



IAEAに「福島原発事故を過小評価せず、被災者の声に真に答えることを求める」要請書

「1月15日、フクシマ・アクション・プロジェクトがIAEAに提出」から要望項目を転載します。

「IAEAには原発即時廃炉に向けての技術開発と放射性廃棄物の処理にこそ世界中の叡智を結集することを切望し、以下のことをIAEAへ要望します。

- | | | |
|---|--|--|
| <p>(1) 人類の最大限の叡智を集めて、福島第一、第二の原発10基全てを即刻、廃炉にし、福島原発事故を真に終息させること。</p> <p>(2) 地震王国日本、活断層や破砕帯が縦横無尽に走っている日本国土に原発はあってはならないものである。福島原発事故の教訓を生かして、「第2のフクシマ」を起こさないように日本全国の全ての原発の再稼働はありえず、即刻、廃炉にするように日本政府に働きかけること。</p> <p>(3) 福島原発事故による子ども・若者たちの放射能被害の最小化に努めること。希望する家族には子どもたち</p> | <p>の安全地帯への避難・疎開・保養を日本政府に早急に促すこと。</p> <p>(4) 福島医大が行っている子どもたちをはじめとする健康調査のデータは本人への情報開示と説明責任を果たすこと。本人や保護者の疑問や心配には充分に応えること。</p> <p>(5) 3.11「福島県の被災者」全員に「健康手帳」（仮称）を配布し、必要に応じて生涯にわたる健康と生活の補償を行うように東電・日本政府・福島県に働きかけること。</p> <p>(6) 被曝労働者の放射能積算量低下に配慮した廃炉技術</p> | <p>を促進させ、新たな雇用を生み出すこと。</p> <p>(7) 使用済み核燃料廃棄物の処分方法を早急に確立させること。</p> <p>(8) 日本政府と共に、エネルギー政策を脱原発に転換すること。再生可能・低炭素エネルギーへの技術革新を促進し、新たな社会構築を行うこと。</p> <p>(9) これまでの原発推進方針を改め、人類への放射能被害を厳しく規制し、かぎりない低減化に切り替えること。</p> <p>(10) 以上の全ての事業は全ての情報公開をもって行われ、外部から不信や疑惑を招かないこと。</p> |
|---|--|--|

以上



「核燃料サイクルからの撤退、建設中の原発の設置許可取り消し、全ての原発の即時廃炉を求める要望書」提出

11月28日、再処理とめたい！首都圏市民のつどいの経産省別館前行動に参加して、プルトニウムフリーから野田首相、枝野経産大臣あての要望書を読み上げ、経済産業省職員に手渡しました。

政府関係閣僚によるエネルギー・環境会議は9月14日、「革新的エネルギー・環境戦略」を決定しました。その内容は、「2030年代に原発稼働ゼロを可能とするよう、あらゆる政策資源を投入する」というものです。

ところが、9月15日、枝野大臣は、「経産省としては工事許可を出した原発について変更することは考えていない」と、建設中の原発の継続を容認しています。もし「40年運転制限を厳格に適用する」と、その原発は2050年を超えて運転されることになり、2030年代までに原発ゼロを可能にするという方針とも矛盾します。

この発言を受けて、10月1日、電源開発株式会社は大間原子力発電所の建設を再開しましたが、大間原発の周辺にも複数の活断層が存在する可能性が指摘されています。MOX燃料を全炉心に装荷する大間原発を震災が襲った場合の被害は計り知れません。

すでに日本は使用済み核燃料から抽出した未使用のプルトニウムを約45トン保有しています。仮に大間原発を建設して、フルMOXで40年間運転しても使いきれぬかどうかわかりません。仮に、プルトニウムを大間原発で燃料として使用したとしても、放射性物質は消滅しませ

ん。核燃料を再処理しMOXで利用する政策は最終処分問題の先送りにすぎません。全国の原発には大量の使用済み核燃料が貯蔵されていますが、その処分問題解決のめどは立っていません。まして、使用済みMOX燃料の処分計画は全く白紙です。

関係自治体との「約束」にとられることなく、日本政府として、今後、核燃料サイクルから撤退する方針を表明し、再処理事業の中止、高速増殖炉もんじゅの廃炉および大間原発の建設中止を決定すべきです。その際、これまでの交付金等に代わる振興策について地元自治体と

の協議が必要なことは言うまでもありません。

私たちは、核燃料サイクルからの撤退、建設中の原発の設置

許可取り消し、全ての原発の即時廃炉を決定し、廃棄物の総量を確定したうえで、日本学術会議が求める「暫定保管」につい

て国民的な議論を行うことを要望します。

以上

脱原発かながわ勝手連 2013年参院選へスタート！ 新しい年が 素敵な一年で ありますように！

2012年12月26日に発足した安倍自民党政権は、早くも原発再稼働、新增設への布石を打ち始めました。

衆院選直前に発足した「日本未来の党」は残念なことに分裂してしまいました。嘉田由紀子代表が脱原発票の受け皿になりきれなかった結果でしょうが、政党交付金の支給基準も絡むなど、政治の世界は複雑ですね。

脱原発かながわ勝手連で応援した候補者からは、脱原発のキーパーソン**阿部知子さん**を南関東ブロックから当選させることができました。「日本全国 原発危険度ランキング」（合同出版、本体600円）をまとめた超党派の国会議員による「**原発ゼロの会**」の発起人であり、事務局を担っています。選挙区の神奈川12区（藤沢・寒川）で、自民、民主と三つ巴の闘いに持ち込むことができたので、比例で復活当選できました。そして、日本未来の党の国会議員として代表を引き受ける事に…。国会内外で活躍してもらいたいのでこれからも応援していきます。

今年7月に予定されている参院選ではリベラル勢力が「小異を尊重して大同につく」選挙協力を実現できなければ、日本の右傾化の流れを変えることはできないし、脱原発も実現できません。選挙活動って、やってみると結構楽しいですよ。

衆院選の分析と参院選に向けての提言は、竹村英明さんのブログ（<http://blog.goo.ne.jp/h-take888>）の『「脱原発の大合流」と「未来の党」そして参院選に期すこと（2012年12月29日）』が参考になります。（Y. M.）

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川 定例会のお知らせ

日時 2月5日(火) 午後0時(正午)～午後3時

場所 神奈川県民活動サポートセンター 604号室
アクセス：横浜駅西口ヨドバシカメラ裏

反原発出前します！ 2013年連続講座

1月31日から隔週木曜日に連続講座を開催します。

第1回 1月31日
基礎からわかる日本の原子力
ウラン採掘から高レベル廃棄物まで（水沢が担当します）

第2回 2月14日
原発の仕組み 福島第一原発
事故を理解するために

第3回 2月28日
放射能と放射線
知って避けよう外部被曝

第4回 3月14日
食品汚染
知って減らそう内部被曝

昼の部は13:30～15:45
夜の部は18:30～20:45
（昼夜は同じ内容です）

会場：連合会館（旧総評会館）
（東京メトロ千代田線
新御茶ノ水駅徒歩ゼロ分）

参加費：1回700円

主催：反原発出前のお店

賛同団体：原子力資料情報室
平和フォーラム

参加申込はメールで
team-takagi@mbr.nifty.com

後半、第5回から第8回まで
企画準備中です。

詳細は同封のチラシで…

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

〒221-0002 神奈川県横浜市神奈川区大口通 83-2-213（水沢気付）

Tel&Fax.045-423-0341 pu-free-com@k.nifty.jp
<http://pu-free-com-kana.cocolog-nifty.com/blog/>